昭和廿一年六月一日 第三種郵便物認可
昭和二十一年九月十三日 夕刊 いわき民報 (金曜日) 第百廿三號 (一)

いわき民報
發行所 いわき民報社
平市田町一番地(電話三八一番)
發行兼編輯人 印刷人 千頭克己
日刊 月極 但日曜日を除く
定價一ヶ月五円 一部二十錢

俄然增加の失業者群
平勤勞署窓口も昨今大混雜
來月からは更に增加見込み

國の切換へに依る新圓の枠生活も惡性インフレの抑制にはさつぱり効能なく、物價は日毎に鰻上りに奔騰、新圓の偏在はます〱露骨化し一時好調の波に乘つてゐた農村すら昨今漸く窮し平市の公益質屋あたりにも農村の客がぽつ〱現はれ始め農漁村の收容力も漸減の一途を辿り始めた、從つて失業者も漸次增加殊に七月才五日の經濟違反の取締りの强化を始め、闇屋に台の思い再統制が青物類やその他に又實施され始めたので、昨今は日を追ふて急激に增加の傾にあり、平勤勞署の窓口にはこれが頗るはつきりと反映してゐる、同署の昨今の狀勢をみると先般實施した失業調査には六千名からの失業者を數へながら、一方の就職希望についてみると僅か就職希望は七百余名といつた矛盾さを示しただけに、窓口を訪れるものも極めて少く、閑古鳥が鳴く有樣だつた、ところが昨日今日登錄者だけで一日平均二十名無登錄者は五、六十名平均に達する盛況さで署員を面喰はせてゐるので、この狀態でゆけば十月ともなれば失業者がどつと出るものとみられ、同署では早くもこれに備へ萬般の準備を整へてゐる

對策の萬全期して
市町村擔當職員を網羅して
新に職業事務研究會を結成

失業者は漸く表面化し、これが救濟は刻下の急とされてゐるのに鑑み、平勤勞署では今後一層市町村自治体との連絡提携を密ならしめ、以つて救濟の万全徹底を期するため、今度市町村の職業事務擔當職員と同署關係職員を以つて、平職業事務研究會を結成、役員を左の如く決定した、同研究會では勤勞行政事務研究、生産勤勞現場の視察研究勤勞諸統計の調査研究、其他必要事項並に親睦事項の處理を目的とすることになつてゐる

▼會長樋口勤勞署長▼副會長櫛田昌男(勿來町)高木一(内郷町)▼常任幹事鈴木寛(平市)矢島精雄 勤勞署)▼幹事草野清省(好間村)小湊新助(四倉町)三浦松治(小名濱町)大平正剛(植田町)柏木忠男(湯本町)

小名濱町會
舊魚市場拂下げ 其他も原案可決

小名濱町會は十一日午前八時半から開會、既報諸原案中舊魚市場の漁業會への拂下げ問題は、漁業會が例の大敷網地先權問題から理事、監事の辭表問題等を惹起してゐる折柄その時機に非らずと立花議員から反對があつたが、樋口議員からそれしきの問題で保留の要なしと原案贊成論があり、金澤議員もこれに贊成、結局全議案原案通り可決した、次いで金澤議員から高女の縣移管運動は、縣下で農、工、商、高女等十一ヶ市町村に達してゐる折柄、機先を制して他に先んじねばならぬと當局の遺漏なきを要望、更らに食糧危機突破に町當局の熱意ある努力を望むところがあつた

六役員辭表提出
注視さるゝ小名濱漁業會
大敷網の波紋

小名濱町大敷網の地先權地元占有案は遂に決戰投票の結果破れ再び丸高組の手に落ちたについて同町漁業會の理事、監事中三代義勝、野崎貞行、比佐政種、高橋友吉、菊地竹次郎、立花明の六氏は右は漁業會内の一致を缺いた結果であるとして、この程何れも御代龜太郎會長の手許へ辭表を提出した、同會では近く役員會を召集、善後策を協議することになつたが、問題が問題だけに成行を各方面から注目されてゐる

新患又一名
鎌田町の赤痢禍

【既報】市内鎌田町に發生した集團赤痢禍に市及保健所當局では現地に防疫班を派して戸別檢疫をはじめ種々防疫對策を行つてゐるが、十一日夕刻佐藤八重子さん(四)が發熱、これで計六名となつた、尚蔓延の兆れあり警戒中

市郡供出 早場米とイモの割當
十七日農業會支部で對策協議

今年の米とサツマイモの縣の供出割當は別面所報の如く米八十三萬九百石、甘藷四百万貫と決定、縣では端境期の突破をはかり直ちに早場米十五万千四百八十石、甘藷百五十七万二千貫の供出割當を行つたが、本郡における早場米の割當は千六百俵、甘藷二十一萬三千貫、平市は早場米なく甘藷のみ八千貫と決定した、昨年にくらべ米は四百俵の減となつて居る反面、郡市とも新たに九月危機突破策として甘藷二十二万余貫の早掘りでいくらか食糧事情も緩和されることになる、農業會石城支部では十七日技術員會を招集しこの早場米及び甘藷の供出につき對策をねることゝした

トラツク購入
資材配給圓滑に

農業會石城支部の資材配給協議會は八日平署會議室に開かれたが、極力農村の要望事項を入れて資材の圓滑配給を期することゝしたが、問題は輸送關係でありトラツク一臺購入問題等も取上げられたが、支部としては時機を見て購入することゝした

供麥に咲く花一輪
組合員を動かした女性の眞心
中神谷第一實組連帶で完遂へ

神谷村中神谷第一實行組合の大小麥の供出は六斗一升六合の未供出で完遂の榮譽をにない得ぬので、組合ではこの程組合會を開いてこの不足分は組合員の連帶責任として供出すべしと志賀古義氏が提案したが、既に供出済みの連中は極力反對、纏らずに終るやにみられたが、この樣を見た國井くにさんは食に困つてゐる消費者の身を考へたら組合員連帶責任で供出するのが當然だと志賀氏の意見を支持、强硬に説いたので組合員も遂にくにさんの熱意に動され組合全員で協力完遂することを申合せた

男子中等校 濱通豫選
十五日磐中校庭で 卓球のみは原町校

縣体協主催男子中等校各種對抗競技大會の濱通り豫選大會は、來る十五日磐中校庭で擧行する種目は陸上競技、籠球、排球、卓球で卓球のみは原町國民學校で行ふ

平寫眞研究會 同人展
廿一、二兩日開く 常陽銀行樓上で

平寫眞研究會の同人展は二十一二の兩日市内二町目常陽銀行樓上で開く、入場無料

診療科目
内科 小兒科
賀澤醫院
小名濱町古港五五
電二九三番

製函材 建具類 製造
特に大量注文に應ず
石城郡四倉町本町
常磐函材株式會社
四倉工場
社長 高山 引
電四倉五〇番

生れ替る配給パン
未利用資源雜粉を排除
戰前の良質ものに

綜合配給で非難の的となつてゐる米代替の味付パンが、一兩日中から戰前同樣の良質のものに替へられ市内の各家庭にお目見得する——去る六月から緊迫した食糧事情の緩和をねらつて未利用資源などの雜粉を混用したる味付パンを代替配給して來たが、兎や角の非難に縣當局でも頭を痛め營團側でもじやがいもの見通しもついたので未利用資源の混用を中止して小麥粉七馬鈴薯三の味付パンに更生してお目見得することになつたもの

平地方では未だ無理
雜粉は使はぬが麥糠は使用する

行について平製パン所では語る縣から良質パンに替へるとの通牒はまだ當方に到達してゐないので、何とも申しあげられない、然し當地方としては薯の入荷その他からみて現在のところ小麥粉七、薯三の割合には出來ない、藁や諸薯の莖葉、蔓等その他雜草の粉等の雜粉せぬが、大麥の糠を混用してゆくから平地方のパンはまだ戰前の良質ものに返ることは間があると思ふ

草野驛創設 五十周年
村でも祝賀式を

草野村では來る十月は丁度草野驛の創設五十周年になるので、盛大な記念式を擧行すべく準備を進めて居るが、同村文協でも縣賞付で藝能大會を開催、全村をあげて祝賀協贊することになり坂本文協會長を中心にこれ又準備を急いでゐる

いわき寸言

▼供麥問題の喧しい折柄、中神谷第一實行組合で未供出分の完遂が一女性組合員の同胞愛の眞心であつさり解決さる、女の力の偉大さと同胞愛の力强さに頭が下る▼失業者群漸く激增、平勤勞署の窓口にも賑ふ、闇に生くるをやめて早く正業についたもの、勝利の日が來たといふ、當然のことながら又一面憂慮さるゝものがある▼國鐵十五日に進駐軍用以外の列車運行を二十四時間サボつて鬪爭するとある、至極尤もなことながら、大衆を苦しめて支援を失ふ勿れ▼たださへ大衆の支援が配電爭議と異り薄い折柄、余程苦心して態度を誤る勿れ、一部の爭議屋のアヂにのみ乘せらるゝこと勿れと祈る▼馘首反對の君達の立場に對する大衆の態度は全面的に支援してゐやう、然しそれになれて大衆の足を奪ふことは考ふべきであらう

工員募集
製鑵工
鋲打工 原圖工 取付工 瓦斯切斷工 穴明工 素人工
二十名
◇但し現場出張工事
希望者は履歴書持參本人來談のこと(平勤勞署)
平市禰宜町一
合資會社程塚鐵工所
社長 程塚公

求貸・賣住宅
仲介も可支拂相談に應ず
平市禰宜町三八
三幸建設工業株式會社
平支店
電一二一二番
(舊神中組)

機械完備
技術本位
◇美術京染◇
◇洗張加工◇
京屋染工場
平市南町五八

本年度産米の 供出は如何なる？ 割當八十二萬九百石を繞つて

本年度産米の縣の供出割當は八十二萬九百石ときまつた、割當は前年より十万石少いわけだが、この本年度割當八十二萬九百石をめぐる諸問題を検討してみると先づ前年度の比較では二十年度の買收は百五十三万四千七百石、割當は九十三萬石であつたところが九月八日現在の供出高は七十七萬五千七百二十六石（八四、三%）であるから今年の割當は昨年度供出したより四萬五千石だけ多いことになる

完遂は出來得る 問題は保有米の限度に懸る

生産者から見る

生産者としては前年の供出より四萬五千石しか多くない譯だから現在の作柄、または米の新公價からみて供出が完遂できるだらう、問題は農家の保有米の限度で當初年間保有を認める農家は三反歩以上といふことであつたが、今度方針が變つて三反乃至四反五畝以上になる見込であるから一人平均四合の年間保有を認められる農家は相當あるわけである

消費側から見る

縣内消費で いつぱい 樂觀を許さない 二合五勺の増加

現在の縣の消費人口から見れば二合五勺に増配すると八十五萬石を必要とする縣内供用量を全部充てやつと間に合ふことになる、しかし生産縣として相當量を縣外に移出しなければならぬのでそれだけ足らぬことになる、その足りない分は、雜穀さつまいも、來年度の麥、じやがいもなどに待つほかないわけだ、なほ少い分は輸入にあほがねばならぬといふ見透しであるが現在のところでは決して樂觀を許さぬものがある

お買物は皆様の
化粧品、固型洗劑、京人形、甘味料、小間物、各種雜貨
▽樂器部新設△
平四丁目　電二六八　やまよし

緬羊増植に加工協會 十四日設立協議

農業會石城支部では既報の如く緬羊増殖に一役とこれが奬勵に各町村に呼びかけたが、こんど加工協會をも設置することゝなり十四日午後一時から泉村國民學校に郡下緬羊協力員、農業會係員の參集をもとめてこれが準備會を開き種々具体案を練る

郡の養蠶五ケ年計畫 先づ桑園百五十町歩を増反

農業會石城支部では見返り物資となる生糸の大増産をはかるため新たに桑園を百五十余町歩に増殖、これに要する桑苗五十萬本も三十萬本も郡内で自給も殘る二十萬本を石川方面から取寄せることゝした、その後の繭價の値上發表とともに養蠶家の意氣込みも物凄く郡の五ケ年七百町増反計畫も漸く軌道に乘つて來た

安齋師の美擧

湯本町惣善寺内安齋覺淳師は五日より十日までの五日間戰災者及外地引揚者、一般窮困者へ灸治療の無料奉仕を行ふ一面一般人にはモグサ類の實費を徴したところ百拾圓に達したので十一日そつくり戰災者親和會の基金へと本社湯本支局を通じて寄附町民を感激させてゐる

列車から振落され慘死

常磐炭礦湯本礦八仙區早舘増藏さん（五二）は水戸へ買出しの歸途五日午后五時頃勿來信號所附近で列車から振落され慘死した

勿來海岸へ頭蓋骨漂着

去る二日午前九時三十分頃勿來町關田海岸に白骨化した頭蓋骨が漂着したのを通行人が發見、植田署に屆出でた、急報に依り係官檢死の結果、男女の別すら分らず死后四ケ月以上を經過したものと見られてゐる

本年二月頃出漁中行方不明となつた植田町金畑坂本淺吉さん（五〇）ではないかと家族に引合せたところ異る点があるので再び調査を開始した

開放

投書を歡迎す　要旨批判結構　紙上匿名可

不思議な請負

▼…所は溜近い温泉街の某郵便局事務室内、時はＸ日午前十時頃、電話新設促進のため出局した一公衆と局員との對談中近くにゐた局長某が『電話は俺のある者に架設するんだ』『今時は物は買に出るのが眞當だ局では賣りに歩かぬ』まるで大道の絲日商人の口調で口入れして遂に自ら進んで發行沙汰に及び問題となろうとしてゐる

▼…この局長の非常識は有名で時々街に話題を提供してゐる。その町の町長彈劾町民大會に自ら買つて座長となつたり町長公選には選擧運動までもやる。これでは到底通信行政の公正な運行は望めまい。不良學徒の退學問題に出しやばつて平市某中等學校を困らせたのもこの男だし學費を貢いだ某氏の恩義を忘れて今は其の交りを絶つたのもこの男なさうだ

▼…局には一日一時間位一寸顔を出し、命備の經濟談義を一席やつて、後は自分の商賣だ。干柿も賣る、綿糸も賣る、鋸も造ると云ふ話だ。局からの月收二〇〇〇では不足なのであらうか株の賣買も時々やる。戰爭の初つた當時は局内のラヂオで經濟市況を聞くのがこの男の一日中の仕事だつた

▼…郵便が缺配しても速達が遲れても電報が役に立たぬになつてもこの局長は一向平氣だ、こんな甘い請負が今時この世の中にあるのが實に不思議だ

（遞次生）

文藝

ヒヽラギ俳人へ（2）

草野淳

ヒヒラギに於ては内部の缺陷と時に分裂せんとしてゐることを未然に防ぐことは、目下の急務であらう。それから私一人がヒヒラギ句會の支持者でないと思はれてゐるやうに、ヒヒラギ句會のみが天下の磐城の句會ではないことを知るべきです。實際ヒヽラギ派の俳句の進歩はさつぱり認められない。（このことは八月九月號で認められずもよいと云つておつたが再び繰り返す。）私は多くの現代の雜誌に接してゐるが、この樣なのは初めてである。『吾々の主張は純粋の意味で、子規に出發したが、決して、その儘、後世に傳ひ、また現在にも擴めようとしてゐるのではない。子規の態度を、正しく見直し、價値づけてゐるのだ。子規の寫生論も、あのまゝでは未だ首肯出來ない』（ヒヒラギ八月九月號參照）と云つてゐるが、今さらこのような言葉を誰が本氣にすると思つておられますか。言論は自由だと云ふことです。けれども、實行の難しい、ことは知つておれるでせうね。子規の寫生論を首肯しない人々の雜誌に、何故に毎月子規の句を卷頭に出し、その寫生論を、生の儘拔き書きして掲げてゐるのですか。本當に子規を戴く人々は怒るでせう事實私は短歌に於て、子規から長塚節にうつゝた作風を勉強してゐるが、『ヒヒラギ』のかうした態度こそ卑怯であらうと輕蔑する。

扨て私は最后に『ヒヒラギに失望し呆れてゐる潤史郎（私のペンネームであつた）を含むグループ』云々は、一寸云ひ過ぎではないかと抗議したい。戎程私は多くの友人を持つてゐる。その大部分は、或は學問に、或は職に、一途の途を歩んでゐる私は現在東京の某學校に學んでゐて、東京にも友人は多い。又三田で私の所に遊びに來る者もゐる。そのうちで、文學的友交關係にゐる者もあるが、そのうちのいづれの友人を指して、私のグループと云つてゐるのか、明確にしてはどうか。ヒヒラギ門人にも友人はゐる。ヒヒラギ門人の大部分は、磐中生及びその卒業生から成つてゐると云ふさうだ。私は純然たる門外漢であつたのだ。私は現在獨りで文學の勉強を遣つて繰返して云ふ私は獨りであるのだ。時は最早や秋である。「ホトトギス」派の俳句よりもヒヒラギ俳句の方が一層子規に近いものであるのだと、自己陶醉してゐるヒヒラギ派の皆樣、大いに俳句生活に健闘あらんことを祈る。私は東京杉並區に定住してゐる。上京したら誰でも可、寄つて下さい大いに文學を論じませう。

一九四六年九月十一日東京にて

五十錢

渡邊與平

秀樹の三週間の祈願もあと三日で滿願であるといふ今日、彼は例の如く歸りのバスを例の場所で待つてゐた。かうやつてゐるときでも彼の心の中は常に母の病氣のことのみで一杯であつた。彼の眞心が通じたならば神も母の病氣を幾分らくにしてくれるであらう……こんなことを祈る彼の心は時間的な觀念も傍にのあるのも知らない程であつた思ひば思ふ程秀樹はいたゝまれない心持をどうすることも出來なかつた。お母さんさいよくなつたら……今まで下をみてこんな考えにふけつてゐた彼は何げなく四邊を見廻すと何時のまにこんなに澤山人が集つたのだらうかと思はれるくらいの人の群であつた。その群衆の中に混つて一人の見なれた女性があつた。彼女はうら若い國民學校の女教師で新學期の休暇を利用して秀樹と同く母が病氣で毎日彼の行つてゐる花園神社に祈願をかけてゐる女性なのである。そんな關係で彼と彼女は境遇を同じうする者の常なのか何時知るとなく知り、何時語るともなく語り合ふやうになりいさゝか知つてゐた。そしてお互に話し合ひ、慰め合つてゐた。秀樹は彼女美鶴の姿を見るなり今日も母の容態を尋ねるのであつた。

『美鶴さん御母さんの御容態はどう』？

『いゝよつぽどいゝんですが何しろ病ではね……』

『駄目ですよそんなに失望しては、眞心をもつて、神にすがるのです、きつと私達の眞心も神に通ずると思ひます。そしたらお母さんの病氣も良くなるでせう』

暫らく沈默が續いた。やがてバスがやつて來たので二人は同乘して隣合つて席についた。バスはいつもになく混んでゐた曲りくねつた山道をバスはあぎ〳〵走り續ける。やがて車掌が料金取りにやつて來たので秀樹は無造作にポケツトの中より八わくちやな五十錢紙幣五、六枚取り出して二圓五十錢支拂つたそして殘余の幾何かの五十錢紙幣を又ポケツトにねじりこんだ二人は依然として車中一言もなかつた。秀樹の心は再び母のことで一杯であつた。暫くしてバスは秀樹のをりるところについたので彼は彼女に別れを告げて我が家に戻つた。それから幾日たつたか忘すれた或る日の朝秀樹の留守中に一通の見馴れぬ女文字の手紙が屆いてゐた。秀樹がかへるや否や机上の手紙を一種の驚異の眼をもつて開封して見た。差出人の名も見ずにやつと半分程讀んでから一体誰からだらうかと氣付いた程周章してゐた。そこには『美鶴』よりとかよはい女の文字が書きつけられてあつた。そして手紙には大体次の樣に書いてあつた。

野村さん突然にて失禮で御座いますが惡しからず御許し下さいませ、早速で御座いますが同封の金〃五十錢〃これは私達がまだ花園に行つてゐた頃の或る日野村さんと自動車に乘つたことありましたね、其の時野村さんがバスの中へ落して置きましたのよ、すぐ上げやうかと思ひましたが遂にその機會がありませんものでしたので友達を通じて失禮とも考えずに御返し致しましたの、どうぞ御金お受取り下さいませ──秀樹は一言一句讀みつゞけてゐるうちに目がしらが熱くなつて來て吾れと吾が身に悟るところがあるのをどうすることも出來なかつた〃彼はこの五十錢〃今日に至るまで落したなどとは夢にも知らなかつたのだ、然るにその〃五十錢〃が今導く美しい眞心の人の手によつて彼のもとに戻つて來たのだ、實に尊い、實に有難い、あゝこの〃五十錢〃！秀樹は非常に美しい心のやさしい人に接したこのよろこびをなんと表言してよいかわからずたゞ落ちるのは涙ばかりであつた。

カメラと
寫眞材料部新設
カメラ高價・讓ドマス
小名濱町役場前
田中寫眞場

藥のことなら……
キクので評判……
ダルマ藥局
小名濱町電222番